

乳幼児期における 持続可能性のための教育を考える

北野幸子
(神戸大学大学院)

これからの乳幼児教育を考える前提 子どもが幸福か？ 世界は持続可能か？

UNICEF イノチェンティ研究所調査報告書NO.16 (2020年9月3日発行)
「子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」

子どもの育ちの姿 (Outcome) : 20位/38か国中

①精神的健康 (Mental Well-being) : 37位(下から2番目)
15歳時の生活満足度 : 下から2番目、15-19歳の自殺率 : 下から12番目

②身体的健康 (Physical Health) : 1番目
5-14歳の死亡率 : 9番目、5-19歳の肥満率の低さ : 1番目

③スキル : 27位
15歳時の数学と読解力PISA : 5番目、
15歳時の友だち創りの容易さ : 下から2番目

日本の特徴 : 医療、保健、衛生、治安・安全の分野は素晴らしい。
人間関係(頼れる人が少ない、いじめ問題等)に、課題。
政策と背景の総合評価が低め : 17位/41か国

詳細は、北野 (2020) 「保育領域の専門性の確立へ～保育の質をめぐる国内外の動向を探る～子どもの幸福度から考える～」遊育、2020年9月号、参照。

SDG'sと乳幼児教育

SDG's が 話題となるはるかに前から

乳幼児教育はまさに、持続可能な発展の根幹

次世代育成
＝社会の存続

次世代育成の在り方
＝社会の発展、環境や平和への意識

乳幼児教育は、これまでも、これからもSDG'sが示す各項目
内容を包括

乳幼児教育におけるSDG's＝総合的な実践のなかで取り組み

SDGsの鍵を握る保育者

目標 4

すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い
教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ターゲット4.2

2030年までに、すべての子どもが男女の区
別なく、質の高い乳幼児の発達支援、ケア及び
就学前教育にアクセスすることにより、初等教
育を受ける準備が整うようにする

SDGsの鍵を握る保育者

目標1 貧困をなくそう

乳幼児期からの支援が、貧困や虐待の連鎖を断ち切る鍵

目標2 飢餓をゼロに

乳幼児期の栄養保障の大切さ

目標3 すべての人に健康と福祉を

乳幼児期にこそ基本的な生活習慣の形成を

SDGsの鍵を握る保育者

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

乳幼児期からの平等意識の醸成
保育者雇用におけるジェンダーバランス
保育者の処遇改善

目標8 働きがいも経済成長も

エッセンシャルワーカー（やりがいのある仕事）
としての保育専門職
保育専門職の働き方改革

SDGsの鍵を握る保育者

目標10 人や国の不平等をなくそう

乳幼児教育＝学びあう経験のスタート

協働的な学び

多様性への気付きから寛容性へ

貧困の連鎖を断ち切る乳幼児教育の機能

目標12 つくる責任、つかう責任

食の大切さ(食べ残し縮減への意識)

廃材の利用

緑のカーテン

SDGsの鍵を握る保育者

目標16 平和と公正をすべての人に

愛着形成、基本的信頼感

自我の芽生え、他者への気付き、

自分を大切に作る心から他者への気付き、尊重へ

思いやりの気持ちの育ち

平和を大切に思う気持ちの育ち

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

人格形成の基礎:乳幼児期に醸成された環境への意識や平和を尊ぶ心は一生涯にわたる大切な力

乳幼児教育こそが、SDG'sにつながる
グローバル・パートナーシップ創りのスタート

「教育振興基本計画」の鍵を握る保育者

目標

1. 確かな学力の育成
2. 豊かな心の育成
3. 健やかな体の育成
6. 家庭・地域の教育力の向上，学校との連携・協働の推進
11. 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
14. 家庭の経済状況や地理的条件への対応

キーワード：Co-Agency（協働連携）、個別最適化、ギガ・スクール構想、等

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編著

小学校学習指導要領に準拠するには
＝幼児期の育ちと学びの姿を踏まえた教育
＝もはや、ゼロ・スタートはありえない
＝今後は、アプローチ・カリキュラム、
準備教育中心の連携ではない

スタート・カリキュラムの作成

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた**資質・能力を踏まえて**教育活動を実施し、児童が**主体的に自己を発揮**しながら学びに**向かう**ことが可能となるようにすること。

特に、小学校入学当初においては、幼児期において**自発的な活動としての遊びを通して**育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、**合科的・関連的な指導**や**弾力的な時間割の設定**など、**指導の工夫**や**指導計画の作成**を行うこと。

世界の教育・保育の動向

OECD (2020 Education Working Paper
「15歳の学力から考える乳幼児教育保障」

開始時期: 3歳

在園期間: 4年間でピーク、若干2-3年間<4-5年間

先生一人当たり子ども数は少ない方がよい

保育者の研修あり

社会経済的環境 (SES: 格差是正の効果3歳未保育)

OECD (2021) Starting Strong VI

「乳幼児教育における意義深い相互作用への支援」

学びの内容よりも、社会情動的(非認知的)力の重視、資質・能力ベース

乳幼児教育の一体化、

関係性支援、協働によるそれぞれの自己発揮、子どもの視点・参画

Co-Agency、保育者の**研修**の重要性、

Balladares, J & Kankaraš, M. (2020). *Attendance in Early Childhood Education and Care Programmes and Academic Proficiencies at Age 15*. OECD Education Working Paper No. 214

OECD (2021), *Starting Strong VI: Supporting Meaningful Interactions in Early Childhood Education and Care*, Starting Strong, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/47a06ae-en>.

Co-Agency（連携協働）時代のこれからの保育

- ・子どもの声を聴く、子どもエージェント
- ・子どものウェルビーイングのための政策を繋げる
- ・SDGsのロードマップで、確固たる基盤づくり
経済と教育格差の是正
すべての子どもへの質の高い乳幼児教育保障、
- ・友だち等他者との**関係性の中で共に育つ**権利の保障を
- ・**自然体験と文化経験**の保証を
- ・安全・衛生等を配慮した環境、教材、素材の保証を
- ・虐待や孤立を避けるために：家庭との連携を
- ・格差是正（ICTも含めた）を

OMEP声明書(2020)「新型コロナウイルス感染症時代の幼児教育・保育の保障を」

UNICEF(2020)「子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」

保育の質の維持・向上のための方略

世界の研究動向 前提：「保育者が高度専門職である」

政策課題

- ①養成と研修、②保育者の定着、③処遇の適正化、
④ジェンダー・バランス

↓

- ①学士が一般化
修士：フランス、アイスランド、イタリア等（台湾：公幼6割）
- ②日本は30歳未満の保育者が最も多い：6割弱
* 15歳に人気のある職種：1.7%、10位
- ③OECD平均は、小学校と同一（公立園）（日本のデータは含まず）
- ④EC目標値：2割
現状：ベルギー、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、UK7.5-12.5%

参考：OECD (2019), *Good Practice for Good Jobs in Early Childhood Education and Care*, OECD Publishing, Paris:
<https://doi.org/10.1787/64562be6-en>. 他

保育の質の鍵を握る保育者 保育従事者調査から考える

保育者対象調査: 9か国で実施した国際比較調査

実践の特徴や、養成・研修の状況、満足度、社会の評価(どう見られているか)

1) どの国でも、リテラシーや数理認識と関わる教育よりも、

社会情動的(非認知的)力量の形成を重視

例: 韓国ヌリ・カリキュラム(2019改訂)

内容(learning contents)が369項目から59項目に縮減

好きな遊び中心・人間関係重視へ

2) どの国においても、保育職は、仕事に関する満足度が高い

3) **社会からの評価**: 日本が最下位

(評価されていると感じている保育者の割合が3割)

4) **保護者の評価**、子どもの評価: 日本が最下位

(例: 保護者評価: 他国約9割、日本約6割)

5) **保育実践(プロセス)の質についての外部評価**: 日本の実施状況が最も低い

6) 有資格者: 日本は有資格者が圧倒的に最も多い

7) 研修の位置づけ: 業務としての研修保障

8) 学士の割合: 日本が調査国中最も少ない

(各国データより、学士以上の人が現職研修に積極的)

これからの乳幼児教育を考える

要領をよりどころに考える

- ・ 「心」を大切にした **情緒の安定、基本的信頼感の形成**、居心地のよさ、**養護**を基盤とした保育
- ・ **誕生からの**育ちをささえる保育
- ・ 環境を通じた保育
- ・ 主体性を尊重した保育
- ・ 発達を踏まえた(適した)教育
- ・ 遊びと生活中心、経験主義的教育

愛着形成の大切さ

現行の要領のポイントの一つ

養護(ケア)の大切さの確認

乳児(0歳児)・3歳未満児の保育の**充実**

背景:

愛着の大切さへの再認識:

乳児・3歳未満児の情緒の安定、安心、居心地の良さ等、保育の質の維持・向上の必要

社会情動的スキル(非認知的力)の育成の大事さ

誕生からの保育を考える必要性

個別最適化教育、暗記型から活用型の育ちと学びへ

誕生からの育ちをささえる保育

誕生から積み上げられて
育まれる

子どもと保育者でつくる 育ちの記録: あそびの中の育ちを可視化する

自尊感情／思いやり／自制心

保育者の援助／環境構成／相互作用への援助、

等の特徴の集約、分析

大阪府私立幼稚園連盟 第26次プロジェクト・メンバーとの共同研究

北野幸子監修(2020) 子どもと保育者でつくる育ちの記録 日本標準



発達をふまえた教育

育ちの基本原則

- (1) 発達の順序性
- (2) 未分化から分化
- (3) 自己中心から社会中心へ

誕生からの育ちを考える

発達を踏まえて留意したいこと

メディア接触: 2歳まで: ゼロ 5歳まで: 1時間/日

座位: 5歳まで: 継続して1時間を超えない

WHO(2019)「5歳までのこどもに関する運動・座位活動・睡眠に関するガイドライン」(<https://apps.who.int/iris/handle/10665/311664>)



子どもの理解に基づく、 子どもの姿ベースの 教育へ

- 無藤隆/監修 大豆生田啓友/
監修 高嶋景子、三谷大紀、
北野幸子、齊藤多江子、松山
洋平、和田美香/著
- 発行年月 : 2019年2月



3・4・5歳
子どもの姿ベースの指導計画

■無藤隆/監修 大豆生田啓友/
監修

三谷大紀、北野幸子、
松山洋平/著

■発行年月 : 2019年5月

すくすくひょうごっ子



すくすくひょうごっ子

乳幼児期は、個人差が大きく、 自己中心的で、リアリティが大事な時期

神戸大学大学院准教授
北野幸子

乳幼児教育では、小学校のように「授業」とは言わず、「実践」と言います。幼児教育に教科がないのは、この時期は学ぶ内容が重要なのではないからです。たとえば、けん玉であれ、こまであれ、竹馬であれ、自分で興味をもち、関わり、試行錯誤し、工夫し、諦めず取り組み、楽しむ、その経験が大切です。個人差の大きいこの時期には「できた、できない」を問うたり、他者と比較したりするのではなく、人やものへの関心、関わろうとする意欲、楽しさや喜びを感じ、知性への信頼や社会性の基礎を育むことが大切です。

昨今の研究成果から、習い事で楽器を早期から習うよりも家族で音楽を鑑賞したり歌ったりすることが大切であること、ある特定のスポーツのトレーニングよりも重心の移動やバランス感覚、多様な動きを育むことが大切であること、日常生活の中で自分で考えたり、感じたりする言葉を育むことが大切であることなどがわかっています。



結果よりプロセスをみとめる

「あ、うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」
「うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」
「うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」

**一緒に見たり
さわったりして
五感で感じて**

自然との関わりを深め
命の大切さを知る道のり

あふあふして
あったかい！

五感（さわり心地、匂い、味、見た目、鳴き声）で、
動植物を体感。

「うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」
「うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」
「うさぎのうさぎがまたうさぎを産んでるわね。」

もっといっぱい
とってくるわね！

命の大切さを知る。

うさぎのうさぎ
おぼつか

動植物の生や死から
命を考える。

育ててみたい！
探究心や好奇心の育ち

感動や不思議に思ったこと
伝えたい！

個別最適化教育へ

一人ひとりの子どもを育む保育者の工夫

話し方、速度、音量、調子、聴く態度、
感情理解、話のつながり、応答、視線、姿勢、表情、うなずき、距離、リラックス度、
ジェスチャー、受容

指示・命令より、疑問、提案、誘いを。。。。

生活経験、自然体験、5感を活用した体験に繋がる環境を
幼児期にこそリアリティを（バーチャル・リアリティの基礎）
複数の感覚器を同時に使うことの大切さ
人と関わりながら、社会性を学ぶことの大切さ
（他者認識：AI＝14万画像、乳幼児＝100画像）

おわりに

誕生から育ちをみる視点を大切に

愛着の大切さの再確認と、表情、身振り等、豊かで、肯定的な、
双方向のコミュニケーションを

行事のみなおし：何をするかから、何が育まれるかへ

家庭との連携

情報の提供は、先手必勝、繰り返し
職員内の合意の形成と、一貫性
豊かな語彙、多様な言い換え

幼児教育と小学校教育との接続

子どもに本当に保障すべき乳幼児教育を